

ごみを「きちんと分別して」出しましょう

近年、可燃ごみに金属類が混入したことによる施設の緊急停止が多発しています。

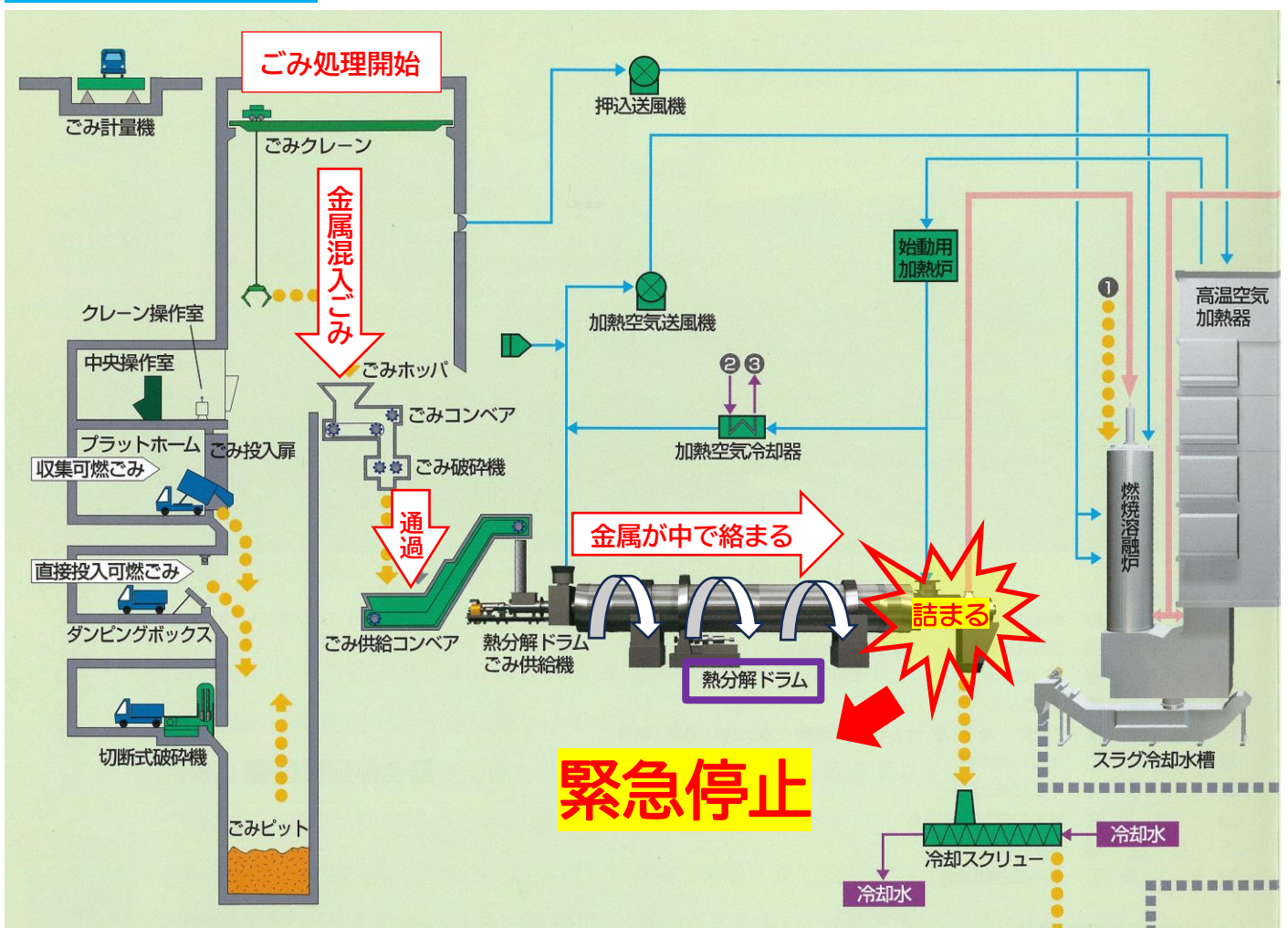
高温状態の設備を降温させてから詰まったものを取り除くため、施設に多大な負荷がかかり、設備の損傷にも繋がります。また、この金属を取り除いた後に、施設を再び動かすまでに使用する助燃剤として、灯油を約 17,000 リットルが必要となり、その費用は、組合を構成する3市(葦崎市、北杜市、甲斐市)が負担しています。

このようなことが続くと、施設に負荷がかかることで、設備が破損する恐れもあります。破損して、修理が長期に亘った場合、「ごみの受け入れ」ができなくなってしまいます。

また、その修理費用も構成3市が負担するため、財政に大きな影響を与えます。

ごみは「きちんと分別して」出していただけますよう皆さまのご協力をお願いします。

緊急停止までの過程



混入していることが多い金属



【施設停止に至った金属の除去の様子】

①ワイヤー類が詰まった状況



②抜き出している状況



③抜き出している状況



④詰まっていたワイヤー類



⑤詰まっていたワイヤー類



⑥ワイヤー類 (針金・チェーン)



⑦ワイヤー類 (金属配管・不燃素材の布類)



⑧ワイヤー類抜き出し完了

